

2026年度 長岡大学シラバス

授業科目名	ゼミナールⅢ (Seminar III)					担当教員	深谷 慎介 (フカヤ シンスケ)	
2020-23年度 入学者(20K-23K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL/協同学 修型 AL/課題解決型 AL
	2025-0-31-060	ゼミナール 科目	必修	2単位	3年次	通年		
2024-25年度 入学者(24K-25K)	科目コード	科目区分	必修・ 選択区分	単位数	配当年次	開講期	科目 特性	知識定着・確認型 AL/協同学 修型 AL/課題解決型 AL
	2425-0-31-005	ゼミナール 科目	必修	2単位	3年次	通年		

① 授業のねらい・概要					
「各自の学びの深化」と「地域・学生双方の福祉の向上」を志向するゼミナールである。ゼミナール全体としては、板倉聖宣の「仮説実験授業」とその理論的背景である「主体的弁証法」、ならびに Jean Lave と Etienne Wenger の「実践共同体」の考え方に注目しているが、個々人の興味や適性を尊重する。各自、興味あるテーマについて探求することを通じて、「仮説の設定」、「討論の編成」、「評価方法の提案」という3つの技能の獲得を目標とする					
② ディプロマ・ポリシーとの関連					
地域社会に貢献する姿勢/職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力/コミュニケーション能力/情報収集・分析力/を涵養する授業である。					
③ 授業の進め方・指示事項					
各ゼミ生は単独で研究を進めてもらっても構わないが、複数名で連帯し研究することも妨げない。必要に応じ、ゼミナール全体で、文献の輪読、インタビュー調査、データ分析手法の講習などを実施する。					
④ 関連科目・履修しておくべき科目					
⑤ テキスト(教科書)※授業で使用する。					
テキスト指定なし。必要がある場合、ゼミナールの学生の意見を聞いて指定する。必要に応じて資料を配布する。					
⑥ 参考図書・指定図書 ※授業では使用しないが、授業内容に関係し、理解を深めるために必要とする。					
⑦ 担当教員からのメッセージ(昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等)					
皆さんの自主性を重んじ、サポートする形で授業を進めたいと考えています。共に学びを楽しみましょう！					
⑧ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安					
(1) 自身の興味にもとづいて探求するテーマを設定でき、現象を説明したり、課題を克服するための仮説を、独力で、設定することができる。 (2) 討論に参加する意欲は高く、討論内容の理解にも優れ、討論の場を編成(オーガナイズ)しようと努めており、発言も的確である。 (3) 仮説の妥当性を示すために必要な条件を、根拠と共に提案することができる。					
⑨ ルーブリック					
評価基準	S	A	B	C	D
評価項目	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(1) 仮説の設定	自身の興味だけでなく先行研究も勘案し、探求するテーマを設定でき、現象を説明したり、課題を克服するための仮説を、独力で、設定することができる。	自身の興味にもとづいて探求するテーマを設定でき、現象を説明したり、課題を克服するための仮説を、独力で、設定することができる。	自身の興味にもとづいて探求するテーマを設定でき、現象を説明したり、課題を克服するための仮説を、教員の補助のもと、設定することができる。	自身の興味にもとづいて探求するテーマを設定できるが、現象を説明したり、課題を克服するための仮説を設定することができない。	自身の興味にもとづいて探求するテーマを設定できず、現象を説明したり、課題を克服するための仮説を設定することもできない。
(2) 討論の編成	討論に参加する意欲は高く、討論内容から論点を整理し、討論の場を編成(オーガナイズ)でき、発言も的確で、討論全体を牽引することができる。	討論に参加する意欲は高く、討論内容の理解にも優れ、討論の場を編成(オーガナイズ)しようと努めており、発言も的確である。	討論に参加する意欲は高く、討論内容の理解にも努めているが、発言は要領を得ない。	討論に参加する意欲は高いが、討論内容の理解は不十分であり、発言も少ない。	討論に参加する意欲に乏しく、発言することもない。

(3)	評価方法の提案	仮説の妥当性を示すために必要な条件を、根拠と共に提案することができ、具体的な評価方法として実装できる。	仮説の妥当性を示すために必要な条件を、根拠と共に提案することができ、	仮説の妥当性を示すために必要な条件を、無根拠ではあるが提案することができる。	仮説の妥当性を示すために必要な条件を考察する意欲は高いが、それらを提案することができない。	仮説の妥当性を示すために必要な条件を考察する意欲に乏しく、それらを提案することができない。
-----	---------	---	------------------------------------	--	---	---

⑩ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法

学習到達目標（評価項目）	定期試験 (レポート含む)	小テスト	課題	発表・ 実技	授業への 取組姿勢・意欲	その他	合計
総合評価割合			30%	40%	30%		100%
(1) 仮説の設定			10%	10%	10%		30%
(2) 討論の編成			10%	20%	10%		40%
(3) 評価方法の提案			10%	10%	10%		30%
評価項目「その他」詳細							
フィードバックの方法	毎回の授業で、討論や諸活動の成果等について講評する。						

⑪ 授業計画と学習課題

回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分）（※特別な持参物）	
1	オリエンテーション	シラバスを熟読し授業の目的を理解したうえで授業に参加する	10分
2	取り組むテーマの検討	各自担当回にゼミナールで取り組むテーマを考えてくる	60分
3	取り組むテーマの検討	各自担当回にゼミナールで取り組むテーマを考えてくる	60分
4	取り組むテーマの検討	各自担当回にゼミナールで取り組むテーマを考えてくる	60分
5	取り組むテーマの絞り込み	各自担当回にゼミナールで取り組むテーマを考えてくる	60分
6	取り組むテーマの決定	ゼミナールで取り組むテーマをどれに絞るかを考えてくる	60分
7	取り組むテーマについての企画を検討する	決定したゼミナールのテーマに関して企画を考えてくる	60分
8	取り組むテーマについての企画を検討する	決定したゼミナールのテーマに関して企画を考えてくる	60分
9	取り組むテーマについての企画を検討する	決定したゼミナールのテーマに関して企画を考えてくる	60分
10	取り組むテーマの情報収集と報告	ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う	60分
11	取り組むテーマの情報収集と報告	ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う	60分
12	取り組むテーマの情報収集と報告	ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う	60分
13	取り組むテーマの情報収集と報告	ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う	60分
14	取り組むテーマの情報収集と報告	ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う	60分
15	取り組むテーマの情報収集と報告	ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う	60分
16	取り組むテーマの情報収集と報告	ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
17	取り組むテーマの情報収集と報告	ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
18	取り組むテーマの情報収集と報告	ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
19	取り組むテーマの情報収集と報告	ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
20	取り組むテーマの情報収集と報告	ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
21	取り組むテーマの情報収集と報告	ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分

22	取り組むテーマの情報収集と報告	ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
23	取り組むテーマの情報収集と報告	ゼミナールで取り組むテーマに関する情報収集を行う 必要に応じて活動報告書を作成	60分
24	成果発表会の準備	発表資料の作成	60分
25	成果発表会の準備	発表資料の完成	60分
26	成果発表会の準備	発表練習の実施	60分
27	成果発表会のふりかえり	発表の振り返りと報告書の作成	60分
28	成果報告書原稿作成	報告書の作成	60分
29	成果報告書原稿作成	報告書の作成	60分
30	成果報告書原稿作成	報告書の完成	60分
⑫ アクティブラーニングについて			
ゼミナールで決めたテーマについてグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを行い、考察を深める。必要に応じてフィールドワークも実施する。			

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性